事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	環境政策部	環境政策課

事業名	福岡都市圏南部地区における可燃ごみ処理施設の整備	基本計画	施策コード 主 4-2-2 再
事業開始年度	平成18年度		分野別目標 人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
根拠法令	福岡都市圏南部環境事業組合規約		施策 循環型社会システムの構築
行政計画上の位置づけ	福岡市一般廃棄物処理基本計画		事業群 ごみ処理施設の維持・整備

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

福岡市，春日市，大野城市，太宰府市及び那珂川町が，平成28年度より共同で可燃性ごみ処理を行うために，平成18年5月に一部事務組合を設立し，清掃工場及び最終処分場の建設及び運営を行うもの。

施策成果指標

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
福岡市（主に南区）・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川町の市民及び事業者が排出する可燃性ごみ	○平成27年度に清掃工場及び最終処分場をそれぞれ竣工したうえで，28年度より一部事務組合で可燃性ごみの適正処理を行う。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	□ 委託含む	□ 補助金含む	■ 負担金含む

＜福岡都市圏南部工場＞（清掃工場）
○建設工事　管理棟・計量棟の建設，内装仕上工事，試運転など

＜福岡都市圏南部最終処分場＞（埋立場）
○土木（造成）工事　雨水排水工事，外壁擁壁工事，場内道路工事など
○浸出水処理施設建設工事　管理棟建設工事，試運転など

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	263,649	30,978	0
歳入	特定財源			
	一般財源	263,649	30,978	0

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	建設工事の進捗率	目標	54.6%	100.0%	―	27年度 100%
		実績	54.4%	100.0%		
		達成率	99.6%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標（KPI）		目標				年度
		実績				
		達成率				
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・一部事務組合を設立し，清掃工場及び最終処分場の建設を行う。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
・平成27年度にそれぞれ竣工し，平成28年度より一部事務組合で可燃性ごみの処理を行う。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
・都市圏南部地域から排出された可燃性ごみは組合によって適正処理される。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
・都市圏南部地域の3市1町からの可燃性ごみ処理受託がなくなり，本市の負担が軽減される。

行政のコントロール要素：大 → 小
外的な要因：小 → 大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	環境政策部	環境政策課				
基本計画	施策コード	主	8-6-1	再			
	分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている					
	施策	アジアの諸都市などへの国際貢献・国際協力の推進					
	事業群	国際貢献・国際協力の推進					

事業名	ふくおかの環境技術を活かした国際貢献・展開
事業開始年度	平成9年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	福岡市環境基本計画

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

平成9年に本市で開催されたアジア太平洋都市サミットを契機に準好気性埋立構造「福岡方式」への関心が高まり，アジア諸国を中心に技術者の派遣，現地での技術指導などの国際協力を行ってきた。

施策成果指標

視察・研修受入人数　（H28：970 人）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
海外の諸都市（海外からの視察・研修生），民間企業（地場企業）	海外からの研修生受入れや職員の海外派遣による国際貢献・協力を推進する（公衆衛生の向上と生活環境の改善のため，「福岡方式」をはじめ，本市が有する環境技術の普及を目指す。）。これらの取組みにより，福岡市の知名度やｽﾃｲﾀｽを向上させるとともに，海外の諸都市との関係を構築し，官民連携した事業展開をめざす。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	□	委託含む	□	補助金含む	□	負担金含む

○技術者の派遣（廃棄物処理に係る国際技術協力実績）
・派遣者数　86名（54ヵ国）【累計】
※平成27年度は，ミャンマー国ヤンゴン市の埋立場現地調査・協議等に2回(延べ6名)の技術者派遣を実施した。

○廃棄物埋立技術「福岡方式」を学ぶ研修員の受け入れ【平成27年度】
・研修員　11名（10ヵ国）　※ミャンマー，ケニア，ベトナムなど
・見学者　384名（53ヵ国）　※マレーシア，ベトナム，ミャンマーなど

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	1,049	770	1,598
歳入	特定財源			
	一般財源	1,049	770	1,598

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	技術協力（職員海外派遣）実施件数（累計）	目標	51	52	56	28年度
		実績	52	54		56
		達成率	102.0%	103.8%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標（KPI）	視察・研修受入人数	目標	300	320	400	28年度
		実績	263	395		400
		達成率	87.7%	123.4%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ（どんな活動を行なうのか）
・「福岡方式」など，福岡市が有する環境技術を積極的にPRするとともに，これに対するニーズを踏まえ，技術協力を実施する。

②結果ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ（活動の結果、どうなるのか）
・技術協力を実施した地域において環境技術が向上し，その地域の環境が改善される。

成果の指標

③中間ｱｳﾄｶﾑ（その結果、対象はどうなるのか）
・技術協力を受けた地域において，福岡市が有する環境技術を自らの手で活用できるようになり，さらに，それぞれの地域を拠点に，その環境技術が他地域にも広がる。

施策成果指標

④最終ｱｳﾄｶﾑ（その結果、市としてどうなるのか）
・アジア太平洋地域における広域的な環境改善が進み，それが本市の環境改善にも寄与する。また，本市の環境都市としての認知度が高まる。

大　行政のコントロール要素　小

小　外的な要因　大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

事業名	市民・事業者の温暖化対策（業務部門）
事業開始年度	平成19年度
根拠法令	地球温暖化対策の推進に関する法律，エネルギーの使用の合理化等に関する法律
行政計画上の位置づけ	福岡市地球温暖化対策地域推進計画

所管課名	環境局	環境政策部	温暖化対策課
基本計画 施策コード	主 4-1-2	再	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	地球温暖化対策の推進と自律分散型エネルギー社会の構築		
事業群	省エネルギーの推進		

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

地球温暖化対策推進法に基づく本市の計画において特に二酸化炭素排出量の割合が高い家庭・業務・自動車の各部門を重点3部門と位置づけ、重点的に施策を実施している。

施策成果指標

業務部門における延床面積1m2あたりのエネルギー消費量（28年度：0．98ギガジュール〔GJ〕）※福岡市環境基本計画（第三次）における現状値1．08ギガジュール〔GJ〕（18～22年度の平均値）に対し約9.2%減

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
市内事業者 市有施設	業務部門における省エネ対策を実施することにより、二酸化炭素の排出削減を図る。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■	委託含む	□	補助金含む	■	負担金含む

○省エネサポート事業
- 事業者を対象とした省エネ講習会を年2回（夏期・冬期）開催
- 省エネに関する情報提供・説明会等の実施
- 省エネ事例集の作成

○市有施設照明改修事業
- リース方式による旧型蛍光灯のLED化
- 水銀灯のLED化

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	23,386	20,030	5,816
歳入	特定財源	2,589	120	121
	一般財源	20,797	19,910	5,695

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	省エネ講習会等の開催回数	目標	10	10	10	28年度 10
		実績	7	10		
		達成率	70.0%	100.0%		
	事業所省エネ技術導入サポート事業の支援件数	目標	30	事業廃止	－	年度
		実績	2			
		達成率	6.7%	－		
成果の指標（KPI）	業務部門における延床面積1m2あたりのエネルギー消費量（GJ）	目標	1.03	1.00	0.98	28年度 0.98
		実績	28年度に集計	29年度に集計		
		達成率	－	－		
	業務部門における床面積あたりの二酸化炭素排出量（16年度比）	目標	▲14%	▲14%	－	27年度 ▲14%
		実績	28年度に集計	29年度に集計		
		達成率	－	－		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
- 省エネ講習会の開催
- 事業PRチラシの郵送，配布
- 市有施設照明改修事業に関する関係課への情報提供
- 既設照明のLED化

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
- 省エネ講習会に参加する。
- 省エネ事例集を参考にして実施可能な省エネ対策を検討する。
- 省エネ対策が実施される。
- 市有施設のLED導入率が向上する。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
- 業務部門におけるエネルギー使用量及び二酸化炭素排出量が削減される。
- 市有施設におけるエネルギー使用量及び二酸化炭素排出量が削減される。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）

業務部門における二酸化炭素排出量の削減により、人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている。

行政のコントロール要素：大 → 小

外的な要因：小 → 大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	環境政策部	エネルギー政策課				
基本計画	施策コード	主 4-1-3	再				
	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている					
	施策	地球温暖化対策の推進と自律分散型エネルギー社会の構築					
	事業群	エネルギーのエリアマネジメントの推進					

事業名	アイランドシティ スマートコミュニティ創造事業
事業開始年度	平成23年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	福岡市環境・エネルギー戦略

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

東日本大震災を踏まえ、エネルギーの安定確保が重要との認識から，アイランドシティにおけるスマートコミュニティの形成について可能性を調査。併せて，H23.12月にはグリーンアジア国際総合特区の指定を受け，事業化を推進することとなった。

施策成果指標

○再生可能エネルギーの設備導入量（H28：70,000kW，H34：110,000kW）
※太陽光発電のみの設備導入量

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
①地元関係者 ②立地企業，住宅事業者 ③環境・エネルギー企業等	①環境エネルギーのまちづくりに取り組む。 ②再エネ導入，建物のスマート化，面的エネルギー対策が進んだまちを形成。 ③スマートコミュニティ関連ビジネスを創出。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■	委託含む	■	補助金含む	■	負担金含む

・IC内のCO2ゼロ街区の新築戸建住宅を対象に，太陽光発電，家庭用燃料電池，蓄電池の導入を支援。(H27n：77件)
・スマートコミュニティに関する新たなビジネス創出のための組織「スマートコミュニティ創造協議会」において，具体的なプロジェクトの検討や実証を行う研究会等を運営するとともに，情報発信・交流事業としてスマートコミュニティフォーラムの開催(303名参加)，展示会等への共同出展(5回)を実施。
・全国初となる再生可能エネルギーを利用した電動アシスト自転車シェアリング実証事業(H27.4～6)を実施。

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	46,449	28,204	6,133
歳入	特定財源	3,333	298	0
	一般財源	43,116	27,906	6,133

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	関連企業交流会等の開催回数	目標	40	30	40	42年度 40
		実績	23	40		
		達成率	57.5%	133.3%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標（KPI）	関連情報発信実績(回)	目標	10	15	10	42年度 10
		実績	11	9		
		達成率	110.0%	60.0%		
		目標				42年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
○再エネ導入，建物のスマート化支援
○産学官連携組織「スマートコミュニティ創造協議会」の支援

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
○再エネ導入
○スマートコミュニティ関連ビジネスの創出

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
○再生可能エネルギーの設備導入量が高まる。
○環境・エネルギー関連ビジネスに関する情報発信につながる。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
自律分散型エネルギー社会の構築

大　行政のコントロール要素　小
小　外的な要因　大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	環境政策部	エネルギー政策課				
基本計画	施策コード	主	4-1-1	再			
	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている					
	施策	地球温暖化対策の推進と自律分散型エネルギー社会の構築					
	事業群	再生可能エネルギー等の導入					

事業名	メガソーラー発電の推進
事業開始年度	平成24年度
根拠法令	エネルギー政策基本法，再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法
行政計画上の位置づけ	福岡市環境・エネルギー戦略

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

平成23年の東日本大震災を契機としたエネルギー政策のあり方が問われている中，太陽光等の再生可能エネルギーへの注目が高まり，エネルギー対策の観点からも福岡市のような都市型の地方自治体にあっても，単にエネルギーを消費するだけでなく，自ら創意工夫をしてエネルギーを創り出す街へと変化していくことが必要となったため。

施策成果指標

○再生可能エネルギーの設備導入量（H28：70,000kW，H34：110,000kW）
※太陽光発電のみの設備導入量

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
市民，事業者	メガソーラー発電による再生可能エネルギーの地産地消

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	□	委託含む	□	補助金含む	□	負担金含む

○メガソーラー発電所（大規模太陽光発電所）の運営及び発電事業並びに固定価格買取制度を活用した太陽光発電売電を行った。
・大原メガソーラー発電所（西部中田埋立場）：H25.2　発電開始
・蒲田メガソーラー発電所（東部武節ヶ浦埋立場跡地）：H26.3　発電開始
・青果市場太陽光発電所：H28.3　発電開始

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	66,721	68,984	189,187
歳入	特定財源	100,244	102,069	242,493
	一般財源	-33,523	-33,085	-53,306

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	メガソーラーによる発電出力（kW）	目標	2,000	5,320	5,320	年度
		実績	2,000	3,000		
		達成率	100.0%	56.4%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標（KPI）	再生可能エネルギーの設備導入量（kW）	目標	55,600	62,800	70,000	34年度※
		実績	86,680	102,296		110,000
		達成率	155.9%	162.9%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

※第9次福岡市基本計画目標値

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・他局部への導入の働きかけ
・市民，事業者へのPR

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
再生可能エネルギーの導入が促進される

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
再生可能エネルギーの設備導入量が増え，市内の電力使用量のうち，再生可能エネルギー由来の電力使用量が増加する。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
自律分散型エネルギー社会の実現

行政のコントロール要素：大 → 小
外的な要因：小 → 大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	環境監理部	環境保全課				
基本計画	施策コード	主	3-7-1	再			
	分野別目標	安全・安心で良好な生活環境が確保されている					
	施策	日常生活の安全・安心の確保					
	事業群	大気環境などの保全					

事業名	黄砂・微小粒子状物質（PM2.5）対策
事業開始年度	平成23年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	第３次環境基本計画　第１節　第１項

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

福岡市が大陸に近く、黄砂等の越境大気汚染に対する市民の関心や不安が高かったことから、平成23年8月に黄砂影響検討委員会を設置し黄砂やPM2.5の予測、行動の目安、情報提供等の検討を開始。

施策成果指標

・安全・安心で良好な生活環境が確保される

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
市民	市民が黄砂やPM2.5について正しく理解し、健康や生活への影響を未然に防止すること。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■	委託含む	□	補助金含む	□	負担金含む

〇PM2.5・黄砂の健康や生活への影響を検討するために専門家で構成したPM2.5・黄砂影響検討委員会において，予測情報の判断基準や高濃度事例の解析等について議論した。
〇福岡市黄砂情報及びPM2.5予測情報システムの安定した運用。
〇ホームページやPM2.5ダイヤルなどによる情報提供に加え，PM2.5等に関する測定データをオープンデータサイトで公開。
〇出前講座やパネル展の開催，環境フェスティバルへのブース出展等を通して，PM2.5に対する正しい知識の普及・啓発を図るとともに，国や大学と連携して，小学生を対象とした健康影響調査を実施した。
〇常時監視に位置づけられるPM2.5の成分分析において，国の定めたコア期間を中心に，2週間毎・年4回・市内3地点にてサンプリングし，保健環境研究所にて分析を実施した。

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	21,817	15,817	16,911
歳入	特定財源			
	一般財源	21,817	15,817	16,911

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	安定的な黄砂・PM2.5予測情報の提供	目標	95.0%	97.0%	100%	34年度
		実績	99.7%	99.7%		100%
		達成率	104.9%	102.8%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標（KPI）	黄砂・PM2.5予測情報の認知度	目標	80.0%	85.0%	85%	34年度
		実績	－	－		100%
		達成率				
		目標				34年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）

・測定データや知見の収集を行い，様々な媒体を用いたわかりやすく正確な情報を提供する
・国等と連携した健康影響調査や成分分析などを実施

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）

・市民の不安に答える適切な情報の安定的な提供
・健康への影響状況や各種測定データの蓄積・公開

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）

・必要に応じて適切な情報入手が可能
・黄砂・PM2.5の影響を正しく客観的に把握が可能
・黄砂・PM2.5についての理解度が向上
・予防行動の実践により，市民の健康や生活への影響を未然に防止

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）

・安全・安心で良好な生活環境が確保される

大　行政のコントロール要素　小

小　外的な要因　大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	循環型社会推進部	資源循環推進課				
基本計画 施策コード	主	4-2-1	再				
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている						
施策	循環型社会システムの構築						
事業群	3Rの推進						

事業名	地域集団回収等の支援
事業開始年度	集団H3，拠点H8，民間協力H12
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	福岡市一般廃棄物処理基本計画

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

"長年に渡る地域主体による資源物回収は"古紙の戸別収集（行政回収）に代わる制度として定着しており，報奨制度による支援を行うことで，これらの団体の活動資金となるだけでなく，地域コミュニティづくりの資金として市民に還元されている。また，紙ごみの減量・リサイクルの促進を目的に地域集団回収を補完する古紙リサイクル事業の一つとして拠点回収事業を開始。

施策成果指標

・ごみ処理量　52万トン（平成28年度）
・リサイクル率　32%　（平成28年度）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
集団回収等実施団体 古紙等を排出する市民	集団回収等実施団体が，地域で資源物の回収活動を活発に行う。また，多くの市民が，古紙等の回収に参加する。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■	委託含む	□	補助金含む	□	負担金含む

○地域集団回収等報奨実施要綱に基づき，地域集団回収等実施団体に対し，回収量等に応じた報奨金を交付。
　対象団体数　1,971団体
　報奨金　　237,058,610円
（持ち去り防止対策　34,233,400円）
○市民の身近な場所に回収拠点を設置（平成27年12月末現在）
　①紙リサイクルボックス　3か所増（計324か所）
　②校区紙リサイクルステーション　2か所増（計96か所）
　③区役所・市民センター等資源物回収ボックス（計9か所）
　④民間協力店（計78か所）
○単身世帯向け啓発
　単身世帯マンション管理会社，古紙回収業者と協働し，古紙リサイクルへの参加促進マンションでの集団回収をモデル的に実施

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	416,225	421,573	431,986
歳入	特定財源	416,225	421,573	431,986
	一般財源	0	0	0

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	回収拠点設置数(か所)	目標	505	510	515	37年度
		実績	502	507		560
		達成率	99.4%	99.4%		
	地域集団回収等実施団体数（団体）	目標	1,936	1,987	1995	年度
		実績	1,951	1,971		
		達成率	100.8%	99.2%		
成果の指標（KPI）	集団回収等によるリサイクル量（トン）	目標	51,649	51,945	52,304	37年度
		実績	42,177	40,645		53,614
		達成率	81.7%	78.2%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・報奨金を交付する。
・回収拠点を増設する。
・古紙等のリサイクルについて啓発する。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
・実施団体が報奨金を使った活動ができる。
・市民が拠点を利用しやすくなる。
・古紙等のリサイクルについて理解する。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
・実施団体が資源物回収活動を推進する。
・市民が古紙等を回収拠点に持ち込み，可燃ごみとして排出しない。
・古紙等，資源物のリサイクル意識が向上する。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
・ごみ処理量の削減。
・リサイクル率の増加。

行政のコントロール要素：大 → 小
外的な要因：小 → 大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	循環型社会推進部	資源循環推進課

事業名	使用済小型電子機器回収事業	基本計画	施策コード 主 4-2-1 再
事業開始年度	平成25年度		分野別目標 人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている
根拠法令	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律		施策 循環型社会システムの構築
行政計画上の位置づけ	福岡市一般廃棄物処理基本計画		事業群 3Rの推進

背景	事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に 民間事業者が事業主体となって，北九州市と共同でモデル事業を行ってきたが，平成25年4月の法施行に伴い，市が主体となって本格実施をすることとなったもの。
施策成果指標	・ごみ処理量　52万トン（平成28年度） ・リサイクル率　32%　（平成28年度）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
使用済小型電子機器を排出する市民	家庭から排出する使用済み小型電子機器を市民が自ら回収ボックスへ持ち込む。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■	委託含む	□	補助金含む	□	負担金含む

〇回収ボックスでの回収
　区役所やスーパーマーケット等66か所に設置した回収ボックスで回収を実施した。
〇使用済小型電子機器の再資源化について広報啓発
　市政だよりやホームページを活用し，使用済小型電子機器の再資源化について広報啓発を行った。
〇粗大ごみからのピックアップ回収
　・回収品目拡大及び回収量増加のため，粗大ごみからのピックアップ回収を行った。
〇回収方法の検討

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	2,736	892	1,169
歳入	特定財源	1,648	892	1,169
	一般財源	1,088	0	0

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	回収ボックスの設置数(か所)	目標	66	66	66	年度
		実績	66	66		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標（KPI）	回収ボックスからの回収量(kg)	目標	4,500	4,500	4500	年度
		実績	4,045	4,241		
		達成率	89.9%	94.2%		
	粗大ごみからの回収量(トン)	目標		12	32	年度
		実績		31		
		達成率		258.3%		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・回収ボックスで回収を行う。
・回収事業について周知を図る（市政だより，ホームページ，ポスター掲示）。
・回収方法の検討を行う。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
・市民が使用済小型電子機器を持ち込みやすくなる。
・市民が使用済小型電子機器を資源物として回収できることを知る。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
・市民が回収ボックスに使用済小型電子機器を持ち込む。
・市民が回収対象品目を燃えないごみとして排出しない。
・使用済小型電子機器のリサイクル意識が向上する。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
・ごみ処理量の削減。
・リサイクル率の増加。

行政のコントロール要素：大 → 小
外的な要因：小 → 大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	循環型社会推進部	資源循環推進課				
基本計画	施策コード	主	4-2-1	再			
	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている					
	施策	循環型社会システムの構築					
	事業群	3Rの推進					

事業名	事業系ごみの資源化調査
事業開始年度	平成11年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	福岡市一般廃棄物処理基本計画

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

事業系ごみの減量・リサイクルを推進するには，業種・規模にあわせた個々の減量・リサイクルメニューが必要であるが，その施策としてメニューを提示するためにはごみの量，組成，排出状況等に関するデータを収集・分析し，今後の施策に反映させる必要がある。
（平成24年度～平成26年度については事業系紙おむつについての調査を実施。）

施策成果指標

・ごみ処理量　52万トン（平成28年度）
・リサイクル率　32%　（平成28年度）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
福岡市内で発生する事業系ごみ	事業者から排出されるごみの量，組成，排出・資源化状況等の実態が十分に把握された状態。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■	委託含む	□	補助金含む	□	負担金含む

〔平成27年度実施内容〕
「事業用途別ごみ排出状況調査」
　事業系ごみの現状を把握し，ごみ減量・リサイクルを図るための施策をより効果的に行うための基礎資料とすることを目的として，事業所（市役所は除く）から排出される事業系一般廃棄物の展開調査を実施した。

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	3,569	8,855	5,384
歳入	特定財源	3,569	8,855	5,384
	一般財源	0	0	0

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	把握につながった調査の数	目標	1	1	1	年度
		実績	1	1		
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				
成果の指標（KPI）	施策につながった調査の数	目標	1	1	1	年度
		実績	0	1		
		達成率	0.0%	100.0%		
		目標				年度
		実績				
		達成率				

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・事業所から排出されるごみの排出状況や資源化状況，組成等について，事業規模別，用途別に調査するとともに，ごみの種類別に分別状況や資源化の有無等について調査する。

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
・事業系ごみの排出実態を把握。
・排出状況の分布を把握。
・リサイクルシステムが未確立の場合は，効率的，経済的な回収ルートや資源化施設の立地を検討するうえでの基礎資料を得る。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
・調査で把握した排出実態等をもとに，その課題解決のための手法を反映させた減量・リサイクル施策を実施する。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
・事業系ごみリサイクル率の増加
・ごみ処理量の減少

大　行政のコントロール要素　小
小　外的な要因　大

事務事業マネジメントシート（平成27年度実施分）

所管課名	環境局	循環型社会推進部	資源循環推進課				
基本計画	施策コード	主	4-2-1	再			
	分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている					
	施策	循環型社会システムの構築					
	事業群	3Rの推進					

事業名	事業系ごみ資源回収推進事業
事業開始年度	平成15年度
根拠法令	なし
行政計画上の位置づけ	福岡市一般廃棄物処理基本計画

背景

事業を始めた理由（きっかけ）は何か　※できるだけ具体的に

事業系ごみの資源化にあたっては，自己処理責任のもと，事業者の自主性に委ねるだけでは資源化が進まない現状がある。そのため，事業系古紙をはじめとして，事業者の資源化に向けた取組を支援する必要がある。なお，平成23年度からは「事業系ごみ資源化推進ファンド」を活用し支援を行っている。

施策成果指標

・ごみ処理量　52万トン（平成28年度）
・リサイクル率　32%　（平成28年度）

【事業概要】

対　象	目　的
誰(何)を対象として行なうのか	対象をどのような状態にしたいのか
福岡市内の事業者	事業者が排出する事業系可燃ごみの内，約45%を占める紙類,約25%を占める食品廃棄物の資源化を推進し，ごみとして処理するのではなく，確実にリサイクルする状態にする。

27年度事業実施内容（手段）目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか

実施手法	■	委託含む	■	補助金含む	■	負担金含む

事業系ごみ資源化推進ファンドを活用し以下の事業を実施
●事業系ごみ資源化情報発信事業（H24年3月～HP作成，資源化情報の発信，古紙回収マッチングサービス，ルールブックの配布，もったいない！食べ残しをなくそう福岡エコ運動等）
【古紙の資源化に関する事業】
●事業系古紙回収推進事業（H15年～関連業界との連携による効率的な古紙回収システムの構築・拡大）
●資源物回収協定制度（H23年～古紙回収業者との協定締結，市HPでのPR）
【食品廃棄物の資源化に関する事業】
●事業系食品廃棄物リサイクル推進事業（H21年～25年リサイクルルート構築支援，H26年～食品リサイクル施設を活用した啓発・施設見学会等）
●事業系食品リサイクル支援モデル事業（H23年～27年）

事業費（千円）	年度	26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額
	歳出合計	8,408	3,274	18,531
歳入	特定財源	8,408	3,274	18,531
	一般財源	0	0	0

【活動・成果指標の達成度】

区分	指標の内容		実績 26年度	実績 27年度	目標 28年度	目標 最終年度
活動の指標	古紙マッチングサービス利用申し込み件数	目標	55	70	70	年度
		実績	85	70		
		達成率	154.5%	100.0%		
	メールマガジンによる情報発信数	目標	6	6	6	年度
		実績	7	7		
		達成率	116.7%	116.7%		
成果の指標（KPI）	事業系古紙リサイクル量(t)	目標	155,601	159,099	159,849	37年度
		実績	162,432	173,364		166,602
		達成率	104.4%	109.0%		
	事業系食品廃棄物リサイクル量(t)	目標	6,155	5,100	6,400	37年度
		実績	5,319	6,470		18,000
		達成率	86.4%	126.9%		

ロジックモデル作成用のテーブル

最終的な成果に到達するまでの行程を書き出してみよう

活動の指標

①活動アウトプット（どんな活動を行なうのか）
・市内事業者への事業系ごみ資源化発信サイトの広報及び情報発信を行う
・環境活動を行う団体へ補助金を交付する
・補助金交付団体をサポートする
・食品関連事業者への啓発
・もったいない！食べ残しをなくそう福岡エコ運動の広報啓発を行う
・福岡エコ運動協力店を推進し，ごみ削減に取組む

②結果アウトプット（活動の結果、どうなるのか）
・古紙・食品廃棄物のリサイクルに取組む事業者が増え，事業所におけるリサイクルの取組みが定着する。
・飲食店等での食べ残しが減り，ごみの排出量が削減する。

成果の指標

③中間アウトカム（その結果、対象はどうなるのか）
・古紙・食品廃棄物のリサイクル量が増える。

施策成果指標

④最終アウトカム（その結果、市としてどうなるのか）
・ごみ処理量の減少
・リサイクル量の増加

行政のコントロール要素：大　小
外的な要因：小　大